

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 共生社会の中で、初代校長の校訓を受け継ぎ「あかるく・ただしく・たくましく」生きる力を育てる。
- * 生徒一人一人の的確な状況把握と将来を見通した多様なニーズに応える指導・支援の実現
 - 1 教育内容のさらなる充実 ～ 一人一人の生徒の自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実 ～
 - 2 安心・安全・きれいな学校づくりの推進
～ 心身ともに健康で安全・安心な学校生活を送るための環境の整備・改善 ～
 - 3 開かれた学校づくりの推進と次世代の育成
～ 関係機関や地域自治会等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成～

2 中期的目標

- 1 生徒一人一人の状況に応じた指導・支援の充実
 - (1) 高等部が知肢併置である本校の普通課程、生活課程に在籍する生徒の現状をふまえた教育課程の編成及び効果的な運用
 - * これまでに蓄積されてきた専門性のある授業内容や教材教具の整理、見直しと、「キャリア発達支援」の新たな観点を取り入れた系統的な授業の工夫、改善を行う。
 - (2) 堺支援学校の「特色ある」「みんなで取り組む」キャリア教育の推進
 - * 入学時からの個に応じた丁寧でわかりやすい情報提供、指導支援を展開する。
 - * 卒業後も誰もが地域とつながる進路指導（外部とのつながりをもたない生徒ゼロ）、コース選択や進路選択に柔軟性があり、自己決定できる、納得できる進路指導を実現する。
 - * 「就労支援・キャリア教育強化事業」の成果をふまえ、授業内容、進路学習週間、現場（企業、福祉事業所）実習の充実を図る。
 - * 大阪府の認証を受けた「なにわの伝統野菜」「大阪産（もん）」の栽培、加工、販売を行う。
 - * 校外のアンテナショップに定期的に出店する。
- 2 心身ともに健康で安全・安心な学校づくり
 - (1) 生徒が「自分は変われる」と実感できる生徒指導の実践
 - * 画一的でない、一人一人の生徒の状況や背景等をふまえた生徒指導の充実を図る。
 - * 思春期の生徒への「性に関する指導」や急速に普及したスマホ等の扱いなどの「情報モラル教育」を推進する。
 - (2) 生徒の可能性を引き出し、育てる活動の充実
 - * 部活動、生徒会活動の活性化を図る。
 - (3) 学校の危機管理体制の充実
 - * 教職員一人一人の危機管理意識の向上を促し、危機管理体制の強化に取り組む。（3（2）と関連）
 - * 生徒自身の防災や危機管理に対する意識を高める。
- 3 地域等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成
 - (1) 地域と連携した「環境教育」の推進と堺の歴史や文化に親しむ
 - * 「さかいホタルプロジェクト」の協力団体としての「カワニナ」の養殖、「仁徳陵」周辺の清掃活動等の推進と、ビオトープ等を活用した新たな環境教育に取り組む。
 - * 堺市の史跡（古墳）や伝統産業等について知る。
 - (2) 地域、PTAと連携した防災体制の整備
 - * 地域、PTAと連携し、本校における事業継続計画（BCP）を作成する。
 - (3) 次世代を担う教員の育成
 - * 本校の状況や地域性等をふまえ、バディ制度を活用した、実践的な堺支援版「初任者研修」を実施する。
 - (4) 学校からの積極的な情報発信
 - * 児童生徒や支援学校への理解・支援が広がるよう、学校ホームページ等の充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○概況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 月下旬に保護者、中学部・高等部一部生徒、教職員を対象に実施した。回収率は保護者 63. %、生徒 71. 8%、教職員 100%であった。 ・保護者を対象としたアンケート 教育内容に関する項目ではすべて肯定的評価が 80%を超え、90%を超えるものも 6 項目あった。しかし、施設設備や不審者対応については否定的評価が 30%を超え、課題となっている。 各項目とも昨年度と大きな差異は見られなかった。 アンケート様式を若干変更し、学部所属を記入するようにしたが、学部未記入のものが 33 部あり、改善の必要がある。 ・生徒を対象としたアンケート 質問の表現と回答の表現をよりわかりやすく改善した。 学校生活全般については肯定的評価が 80%を超えている。 ・教職員を対象としたアンケート 年々回収率がアップし、今年度 100%となった。 教育活動に関するものは、肯定的評価が大半である。 教育条件整備については、十分でないという評価である。 	<p>第 1 回（6/29）</p> <p>学校経営計画について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 デイサービスとの連携 <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスの車の整理を教職員がやってくれている。 ・福祉と教育の連携ツールを作る必要がある。 ・学校単独ではなく、上部機関での協議が必要である。 2 キャリア教育について <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアステージ表のこのお知らせも必要。具体的な活用が大事。 ・段階を多く踏まないと就労につながらない。 3 安全安心について <ul style="list-style-type: none"> ・事例を学んで、チェック機能を高めていってもらいたい。 4 医ケアについて <ul style="list-style-type: none"> ・学部・学年のつながりが重要。 ・教員が取り組んでいることを学校は PR 不足。 5 地域連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ホタルプロジェクトは定着した。 ・地域連携は進んでいる。防災の取り組みも進めていってもらいたい。 6 人材育成について <ul style="list-style-type: none"> ・バディ制度を活用し、専門性の向上につなげてもらいたい。

<p>○課題の検討方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討課題の項目については、運営委員会を中心に改善策の依頼を、学部、分掌等へする。 ・学校協議会に結果を報告し、意見交換を行う。 	<p>7 P T A 活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加すれば交流もできて、プラスになる。 <p>第2回（12/7）</p> <p>学校教育自己診断について</p> <p>（1）堺支援学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の回収率が低い。 ・児童生徒が相談できる相手がいることはありがたい。 ・命の大切さで性教育はどうなっているのか。 （全体計画を出し、各学年で発達段階に応じ、取り組んでいる。） ・道徳教育は、全体で行われているが、教科化での認識が必要。 <p>（2）大手前分校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校学園連絡会等が有効で、連携は進んでいる。 <p>第3回（2/23）</p> <p>（1）平成28年度学校経営計画および学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業所合同説明会はいい取り組み。成果を外部に発信してもらいたい。 ・ヒアリハット、インシデントの取り組みが定着してきている。この取り組みも発信してもらいたい。 ・引き続き事務処理の効率化を進めてもらいたい。 ・教員の育成も引き続き進めてもらいたい。 ・地域のイベントに参加していくのは良いことである。支援学校のPRにもなる。 ・地域と連携した防災も進んでいる。 ・ホタル観賞会も認知されてきた。 <p>（2）学校教育自己診断について</p> <p>肯定的評価が低かった項目については、今後も改善に向けた取り組みを進めてもらいたい。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒一人一人の状況に応じた指導・支援の充実	<p>(1) 高等部普通課程、生活課程に在籍する生徒の現状をふまえた教育課程の編成と効果的な運用</p> <p>ア これまで蓄積されてきた専門性のある授業内容や教材教具の整理と「キャリア発達支援」の新たな視点を取り入れた系統的な授業の工夫、改善</p> <p>(2) 堺支援の「特色ある」「みんなで取り組む」キャリア教育の推進</p> <p>ア 大阪府から認証を受けた「なにわの伝統野菜」「大阪産(もん)」の栽培、加工、販売</p> <p>イ 校外のアンテナショップ(地域の商店街など)への定期的な出店</p> <p>ウ 「就労支援・キャリア教育強化事業」の成果をふまえた、授業内容、進路学習週間、現場(企業、福祉事業所)実習の充実</p> <p>エ 卒業後も誰もが地域とつながる進路指導(外部とのつながりをもたない生徒ゼロ)、柔軟な進路選択、コース選択、納得できる進路指導の実現</p> <p>オ 政治的教養をはぐくむ教育を展開</p>	<p>(1)</p> <p>ア 両課程に共通する「キャリア発達支援」の観点に立ち、本校の「キャリア教育プログラムステージ表」の「健康」「感性」「コミュニケーション」「能力」「社会性」の視点を実際の学習計画に組み入れる</p> <p>(2)</p> <p>ア 大阪府から認証を受けた「なにわの伝統野菜」「大阪産(もん)」の栽培、加工、販売を行い、堺支援の職業(園芸)の特産品にする</p> <p>イ 職業の学習を中心に、「作品」でなく「縫製製品」づくりを行い、校外のアンテナショップに定期的に出店する</p> <p>ウ 進路学習週間の実施内容の検討 職業コースの授業内容の検討</p> <p>エ 高等部入学段階から生徒、保護者と連携し、希望する進路実現のための個に応じた丁寧な情報提供、指導支援を行う。</p> <p>オ 「生活」の授業のなかで、選挙権年齢が引き下げになった意義について学習する</p>	<p>(1)</p> <p>ア 授業の年間計画と「堺支援キャリア教育プログラムステージ表」をリンクさせる 年間計画の中に、各教科等の授業内容が「堺支援キャリア教育プログラムステージ表」のどの領域・視点に該当するのかを記載する</p> <p>(2)</p> <p>ア 「田辺大根」は学校給食の全校生徒の食材として、給食室に配達する 他の「なにわの伝統野菜」「大阪産(もん)」も、校内だけでなく、校外へも出店し、PR活動を行う</p> <p>イ 堺東商店街「ガシ横マーケットプラス!」等へ年3回以上の出店を行う。 堺都市緑化センターのイベント参加(2回)</p> <p>ウ 「職業」の授業を軸に目標設定や評価の指標を明確にした進路学習週間を6月と2月に実施する 企業と学校をつなげるための補助教材テキストを開発し作成する</p> <p>エ 保護者の肯定的評価85%以上 本校を会場に「福祉事業所合同説明会」を開催する 企業登録バンクや現場体験協力企業紹介プレゼンテーション等を活用し、生徒が進路の自己選択ができるように情報提供、支援をする</p> <p>オ 「政治的教養をはぐくむ教育」の指導計画を作成し、今年度予定される参議院議員選挙をトピックスにして、班別協議などの授業を展開する</p>	<p>(1)</p> <p>ア 授業年間計画と「堺支援キャリア教育プログラムステージ表」をリンクさせるなど完全に実施できた (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 「田辺大根」を栽培し学校給食として食した。 地域住民へ栽培野菜をバザー提供しアピールした。 (○)</p> <p>イ 堺東商店街へは3回出店し、緑化センターイベント参加は2回達成した。 (○)</p> <p>ウ 授業とリンクさせた進路学習週間を実施した。 補助教材は7割完成しており、来年度には完全完成の予定。 (△)</p> <p>エ 保護者の肯定的評価は80%。 本校会場にした「福祉合同説明会」を開催し55法人が参加し、来場保護者数は130名であった。(△) また登録バンクや紹介プレゼンテーションにより企業実習に役立った。(○)</p> <p>オ 堺市選管より記載台、投票箱の提供をうけ、生徒会選挙で使用することができた。 生徒は「本当の選挙を疑似体験できた」との感想をもった。 (○)</p>

府立堺支援学校

<p>2 心身ともに健康で安全・安心な学校づくり</p>	<p>(1) 生徒が「自分は変わる」と実感できる生徒指導の実践 ア 画一的でない生徒の状況や背景等をふまえた生徒指導の充実を図る イ 思春期の生徒への「性に関する指導」や急速に普及したスマホ等の扱いなどの「情報モラル教育」を推進する</p> <p>(2) 生徒の可能性を引き出し、育てる活動の充実 ア 部活動、生徒会活動の活性化を図る</p> <p>(3) 学校の危機管理体制の充実 ア 教職員一人一人の危機管理意識の向上を促し、危機管理体制の強化に取り組む(3(2)アと関連) イ 生徒自身の防災や危機管理に対する意識を高める ウ 災害時における児童生徒の安否確認をできるだけすみやかに、徹底しておこなう</p>	<p>(1) ア 臨床心理士等とも連携した事案への対応検討会議を行う イ 外部講師を招いた研修を行う。 保護者の理解協力のもとで、生徒の状況に応じた「性に関する指導」「情報モラル教育」を実施する</p> <p>(2) ア 部活動、生徒会活動、昼休みの活動等で、興味関心のある生徒が集い、校内外で楽しく交流できる場を設定する</p> <p>(3) ア 地域、PTAと連携し、本校における事業継続計画(BCP)を作成する イ 生徒向け「防災教育」を実施する ウ 首席、分掌長が中心となり、全校教職員で協議を進める</p>	<p>(1) ア 事案ごとに、生徒の状況や背景等をふまえた指導内容、指導期間等の検討を行い、継続的に効果検証をする イ 教員研修、保護者向け研修を2回以上実施する 教員、保護者の肯定的評価80%以上 指導計画を作成し、学年、グループなどで、生徒の状況に応じた「性に関する指導」「情報モラル教育」を実施する</p> <p>(2) ア 美術コンクール等にも積極的に応募する</p> <p>(3) ア 地域の防災士からも指導助言をいただきながら、自治会と連携した合同訓練(シミュレーション)を行う 年度内に内容を充実させた事業継続計画(第2稿)を作成する PTA実行委員会等とも検討の場を設定する イ 事業継続計画(BCP)に小学部、中学部、高等部向けの防災教育の事例を掲載する 各学年、グループ等で年1回以上実施する ウ 安否確認実施マニュアルを作成する</p>	<p>(1) ア 部会や学年会を活用して生徒指導協議をした。 外部専門家は招かず(△) イ 教員研修、保護者向け研修を2回実施した。 教員、保護者の肯定的評価80%以上。(○) (2) ア ・サッカーパラリアンアートコンテスト(5月)に高等部2年生参加。 ・高校展(8月)奨励賞2名。 ・Sakai アートケーション(10月)高3訪問籍生徒参加。 ・1枚のはがきアートコンテスト(12月)佳作2名。(○) (3)ア. 自治会と合同訓練を行う(1回)。(○) イ. 事業継続計画(BCP)完成した。(○) ウ. 安否確認実施マニュアル完成。(○)</p>
----------------------------------	---	--	---	--

府立堺支援学校

<p>3 地域等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成</p>	<p>(1) 地域と連携した「環境教育」の推進と堺の歴史や文化に親しむ ア 「さかいホテルプロジェクト」の協力団体としての「カワニナ」の養殖、「仁徳陵」周辺の清掃活動等の推進 イ ビオトープ等を活用した環境教育に取り組む</p> <p>(2) ア 高校との福祉交流をすすめ、共生社会へ向け連携協力する力をつける</p> <p>(3) 地域、PTAと連携した防災体制の整備 ア 地域、PTAと連携し、避難、救護、備蓄、通信等の学校体制の整備を行う</p> <p>(4) 次世代を担う教員の育成 ア 日ごろの教育実践の中で感じている身近な課題を仲間とともに解決する場を設ける</p> <p>(5) 学校から積極的に情報を発信し、児童生徒や支援学校への理解・支援の輪を広げる ア 学校ホームページの充実を図る</p>	<p>(1) ア 堺市公園協会と連携し、「ホテル観賞会」開催に向けたホテルの育成や準備に協力する 自治会や近隣の学校、地元NPO等とともに「仁徳陵周辺の清掃活動」に参加する イ ビオトープ等を活用し、自然や身近な生物、環境問題への関心を深める</p> <p>(2) ア 高校生が本校に来校し生徒の学習状況やニーズを学び、その知識、情報をもとに本校生徒がOTで使用する訓練器具を制作する。それを使って感想などを本校生徒と交流校とで話し合う</p> <p>ア 地域、PTAと連携し、本校における事業継続計画(BCP)を作成する(2(3)ア再掲)</p> <p>(4) ア 本校の状況や地域性等をふまえ、バディ制度を活用した、実践的な堺支援版「初任者研修」を実施する</p> <p>(5) ア 本校ホームページの中の「堺支援学校ブログ」等を活用し、学校内外のできごとや児童生徒のようす等をわかりやすく発信する</p>	<p>(1) ア 隣接する堺市都市緑化センターで開催される「ホテル観賞会」のために、養殖した「カワニナ」等を提供する 年5回程度、地域の清掃活動を行う 学習の成果を絵画、写真、作文などで発表する イ ビオトープは生活課程の授業の一環として清掃や管理維持作業をおこなう</p> <p>(2) ア 大阪市立工芸高校の生徒が、訓練器具を制作する。それを訓練の時間に使用した本校生徒と工芸高校の生徒で、訓練器具の使用感や反省点を協議し交流を深める</p> <p>ア 地域の防災士からも指導助言をいただきながら、自治会と連携した合同訓練(シミュレーション)を行う 年度内に内容を充実させた事業継続計画(第2稿)を作成する PTA実行委員会等とも検討の場を設定する(2(3)ア再掲)</p> <p>(4) ア 年5回程度、研修を実施する 初任者は、必ず研究授業を行う 実際の現場で困った「支援教育関係の用語」を自分たちのことばで解説する「用語集」を作成する。学校ホームページに掲載する</p> <p>(5) ア 月2回以上、ブログの更新を行う</p>	<p>(1) ア 「ホテル観賞会」は1週間で800人の来場があった。 12回の地域清掃以外に、土曜日に保護者や生徒、教員で仁徳御陵周辺を地域各団体と合同で清掃した(今年度は11月に実施、3月にも実施予定)(◎) イ ビオトープは生活課程に授業として取り組み新しい植栽をおこなった。(○)</p> <p>(2) ア 大阪市立工芸高校37名が来校し、制作した訓練器具引き渡し式を行い、訓練器具(新作9個、修理4個)を贈られる。そのあと小学部、中学部とで給食交流を行う。高等部は交流なし。 (△) ア.PTAと学習の機会をもち、研修を2回開催した。(○)</p> <p>(4) ア 全員、5回以上行った。 また「用語集」は70%完成。 (△)</p> <p>(5) 月平均2回更新できた。児童生徒から反響があった。(○)</p>
---	---	---	---	---